

■(4代目)武田長兵衛

たけだちょうべえ

順天堂始・・1843＝

薬種商。家業を洋薬商として再出発させ、現在の武田薬品工業につながる。

この頃、3代目近江屋長兵衛の代判を勤めていた近江屋長三郎の三男に生まれる。幼名は亀蔵。

阿部正弘首座1845＝ 2歳：

生来病弱で、

万次郎帰国・1852＝ 9歳：

ペリー来航・1853＝10歳：この頃、京都二条の薬種商松屋喜兵衛方に丁稚奉公に上がるに際し、母により鉄蔵と改名される。

五ヶ国条約・1858＝15歳：

安政の大獄・1859＝16歳：

桜田門外変・1860＝17歳：

遣欧使節・・1861＝18歳：

3代目長兵衛が相次いで子を失った上、死去。その妻で姉のユウが経営を切盛りし、後継者選びは難航、3代目長兵衛の生家竹田惣治郎が本家竹田徳兵衛と相談の結果、妻ユウの弟ということで後継者に選ばれ、近江屋長兵衛家に入籍し、4代目長兵衛となる。

漢方薬の薬種問屋として医師の注文に応じていたが、開国後の西洋の学問の影響に早くから反応し、

明治維新・・1868＝25歳：維新とともに、同業者に先駆けて洋薬の店を開業することを決意し、

初の日刊新聞1870＝27歳：長男重太郎(のち5代目)が誕生。

廃藩置県・・1871＝28歳：

明治6年政変 1873＝30歳：

*松屋喜兵衛・近江屋嘉兵衛とともに、洋薬組合{丸本}を始め、戸籍法制定で、武田長兵衛を名乗ることとし、{武田長兵衛商店}と改称。外国商館から直接洋薬を引取ることができるようになる。
徹底的な管理をする一方、必要な投資は惜しまない経営で、

琉球処分・・1879＝36歳：

明治14年政変1881＝38歳：

製薬の国産化の代表だったヨードに対応して、密接な関係にあった大阪の代表的製薬業者加藤碌平の内弟子中藤昇平に、特約工場を委嘱して、ヨードカリを生産、

初の対等条約1888＝45歳：

帝国憲法発布1889＝46歳：

帝国議会始・1890＝47歳：

大津事件・・1891＝48歳：

郡司千島探検1893＝50歳：

日清戦争始・1894＝51歳：

日清戦争終・1895＝52歳：

八幡製鉄始・1897＝54歳：

*ヨードとその副成物の生産販売を目的に、15代目田辺五兵衛・2代目塩野義三郎らと、{廣業舎}を設立。
この年、業界で縁のあった薬剤師内林直吉が{帝国衛生粉末株式会社}を創立するのを斡旋、この間、長男重太郎が外国商館に度々出かけて、貿易の実態を把握、輸入品に劣らない品質のヨード関連物を生産するに至り、{廣業合資会社}に改編。
洋薬を直輸入に切り替え、自社製造を始めるべく、不振になった内林直吉の{帝国衛生粉末}の製薬所を専属工場に指定。

日露戦争始・1904＝61歳：

日露戦争終・1905＝62歳：

満鉄発足・・1906＝63歳：

没年不明。

*隠居し、長男重太郎が5代目長兵衛となる。